



「にんしん」をきっかけに、
誰もが孤立することなく
幸せに生きていける社会を目指して

NPO法人 ピッコラーレ活動紹介
大庭美代子（助産師）

特定非営利活動法人 ピッコラーレ 団体概要

代表 中島 かおり

設立 2016年3月 一般社団法人 にんしんSOS東京を設立

2018年11月 特定非営利活動法人 ピッコラーレを設立

2019年4月 一般社団法人 にんしんSOS東京より特定非営利活動法人
ピッコラーレにすべての事業を移管し運営を開始

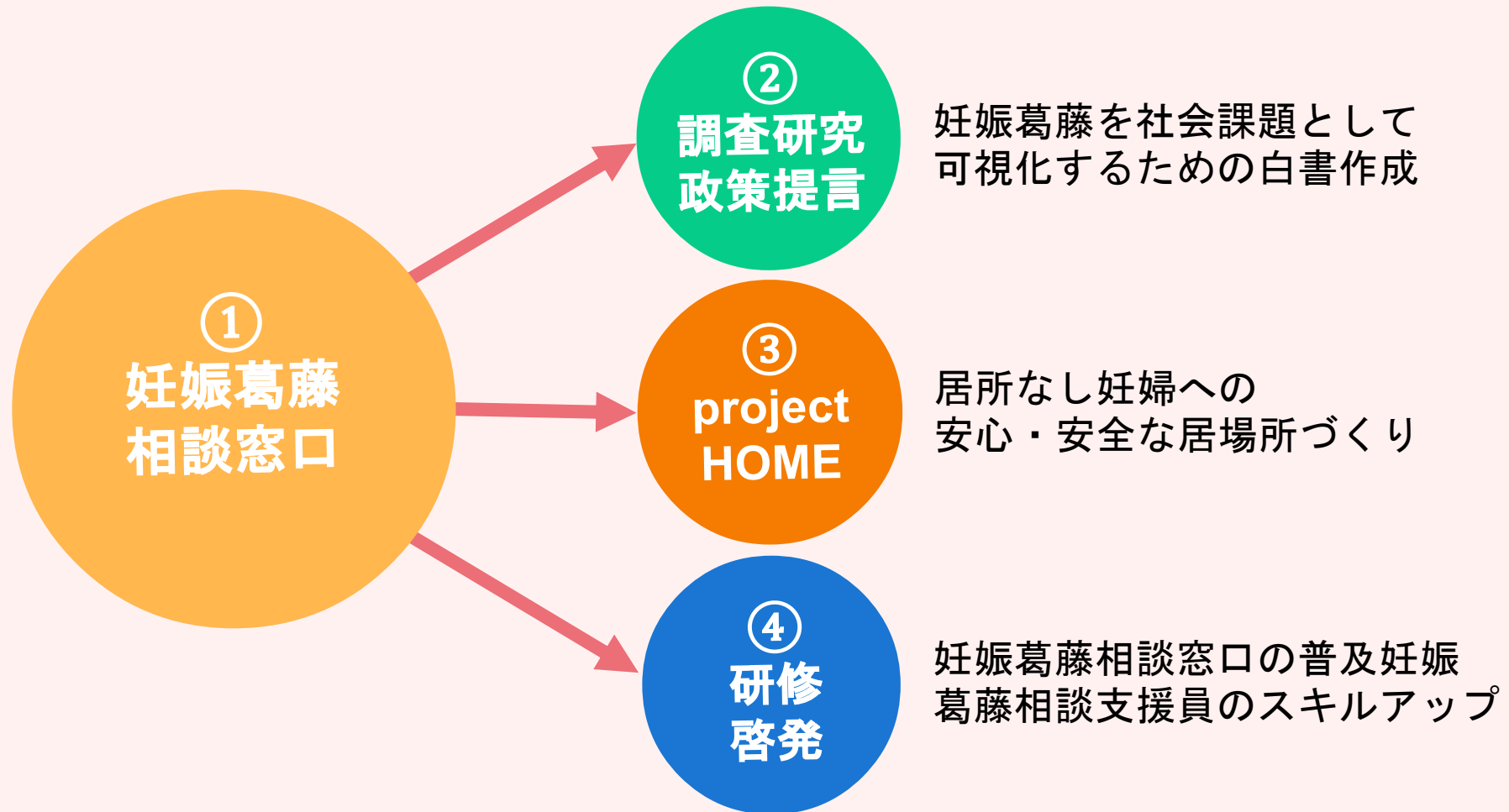
相談支援員数 39名

事業内容

1. 妊娠葛藤相談事業：「思いがけない妊娠」など、妊娠葛藤を抱える相談者とその関係者を対象とした継続的相談ができる窓口開設と支援活動の実施。
2. 調査研究・政策提言事業：妊娠葛藤という社会課題解決に向けた政策提言や相談データをもとにした白書作成の実施。
3. 居場所づくり事業(project HOME)：居所のない妊婦のための居場所の提供
4. 研修・啓発事業：妊娠葛藤の背景にある様々な社会課題の解決に向け、支援者の養成や啓発活動の実施。

ピッコラーレの事業 全体像

妊娠葛藤相談窓口に寄せられる声を聞くことによって見えてきた「課題」解決へ向けての取り組みとして、新たに3つの事業を開始



ピッコラーレが取り組む 「にんしん」をめぐる社会課題



日本における年間出生数・人工妊娠中絶件数

厚生労働省 2018(平成30)年度人口動態統計(概数)より

6.6人に1人が中絶

出生数 91.8万人

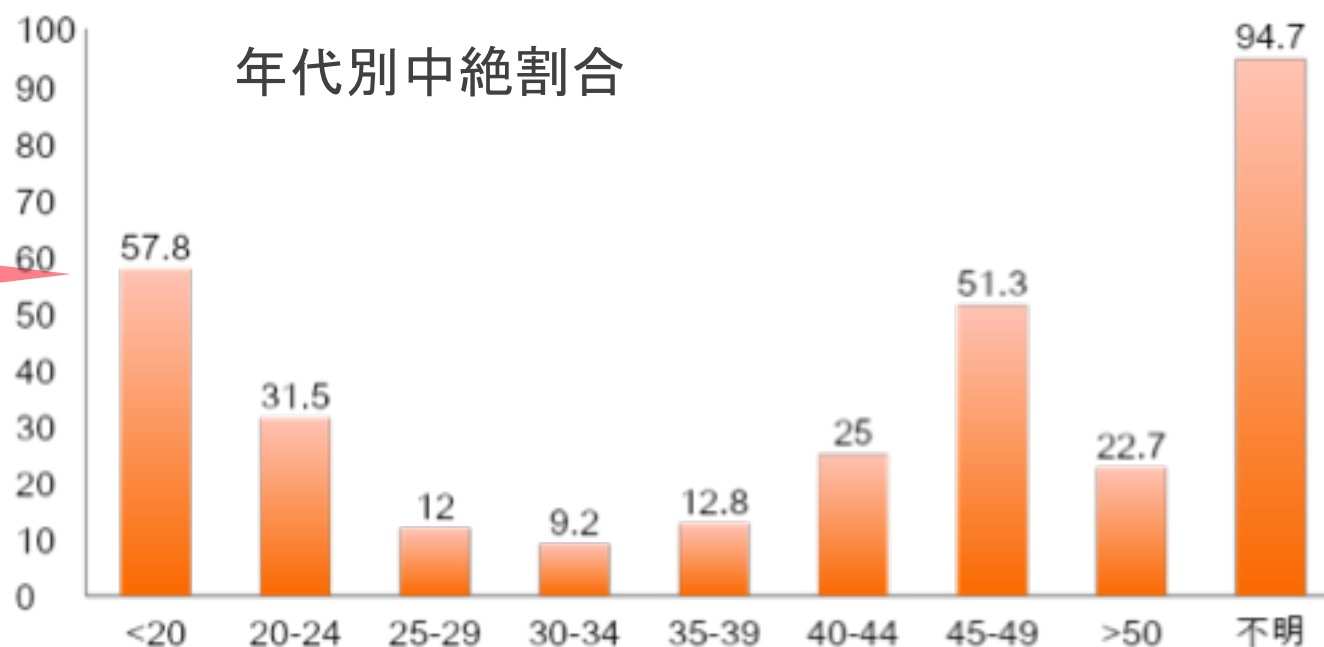


中絶件数 16.4万人



年代別中絶割合

10代が最多

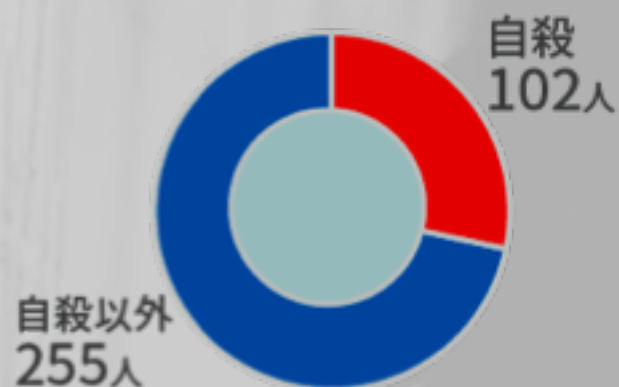


■ 妊娠100に占める中絶の割合

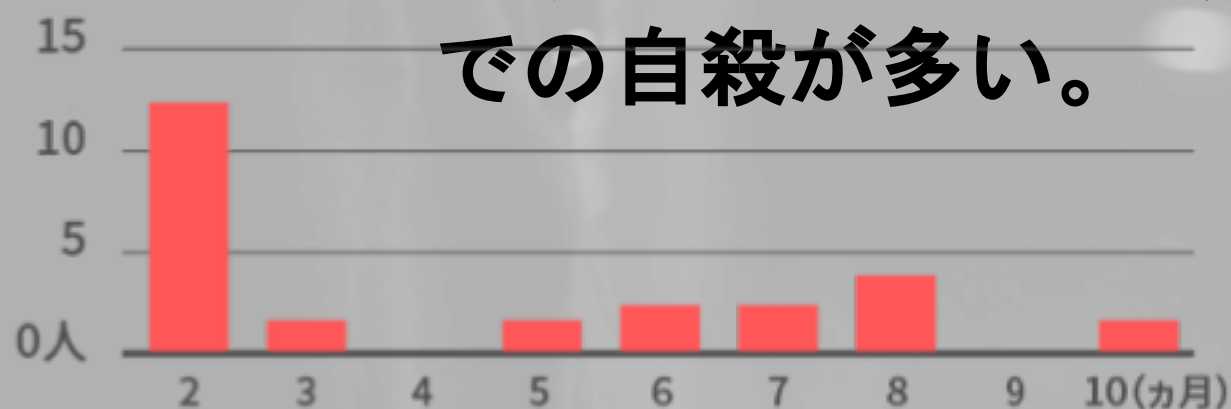
平成28年度人口動態統計より
妊娠総数(=出生数+中絶件数)として
中絶割合を求めた (作成 piccorale)

周産期の死亡原因は自殺が最多

- ・ 一般の鬱病有病率は5.6%、妊娠中は11%に上る
- ・ 産後鬱の半数ほどは妊娠中の発症
(2018国立成育医療研究センター)



妊婦の自殺では、
妊娠に気がつく2ヶ月目
での自殺が多い。



日本産婦人科医会東京都23区の妊産婦の異常死の実態調査2005~2014

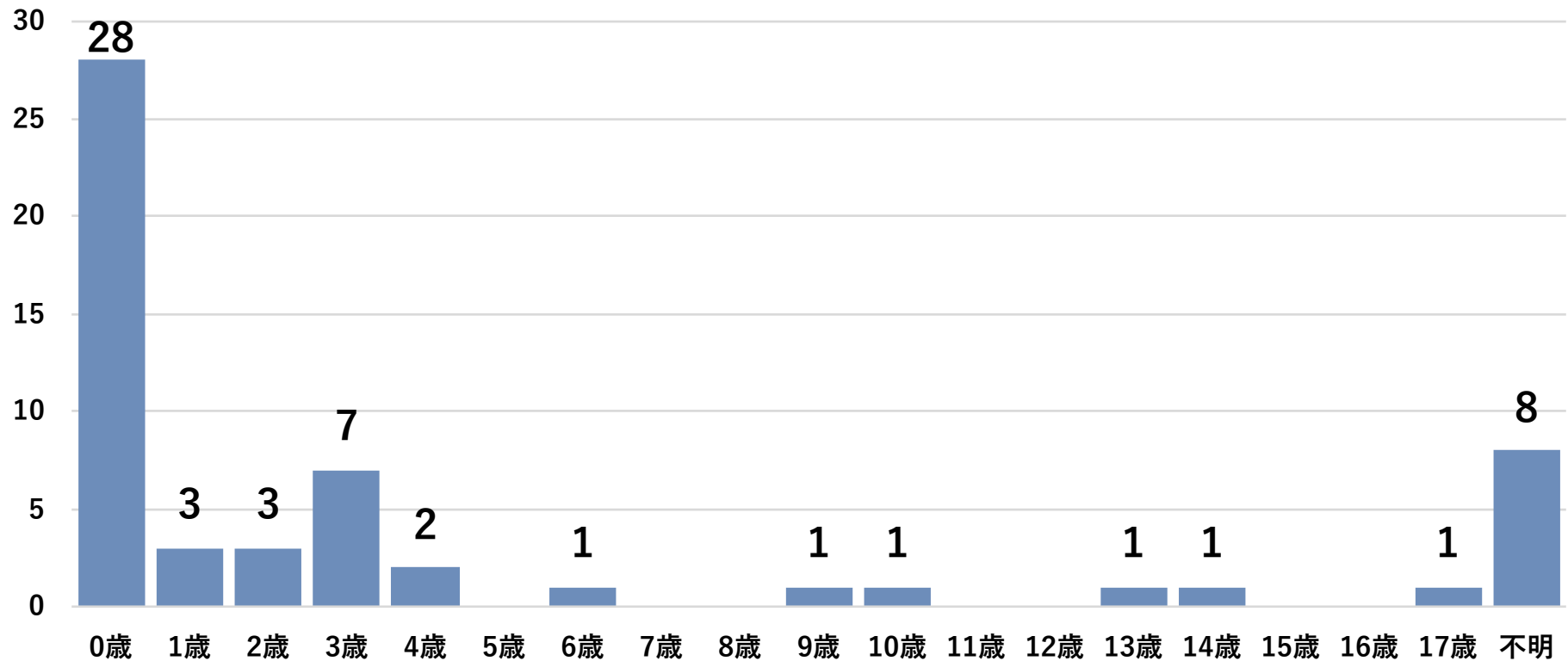
子どもの虐待死でいちばん多いのは0歳児

平成30年4月1日から令和2年3月31日の間に発生した心中以外の

子ども虐待死：57人

子どもの年齢：0歳が28人

このうち0日死亡は9人、すべてが「遺棄」



子ども虐待による死亡事例等の検証結果等について
社会保障審議会児童部会児童虐待等要保護事例の検証に関する専門委員会 第17次報告より

母子健康手帳未交付・妊婦健診未受診

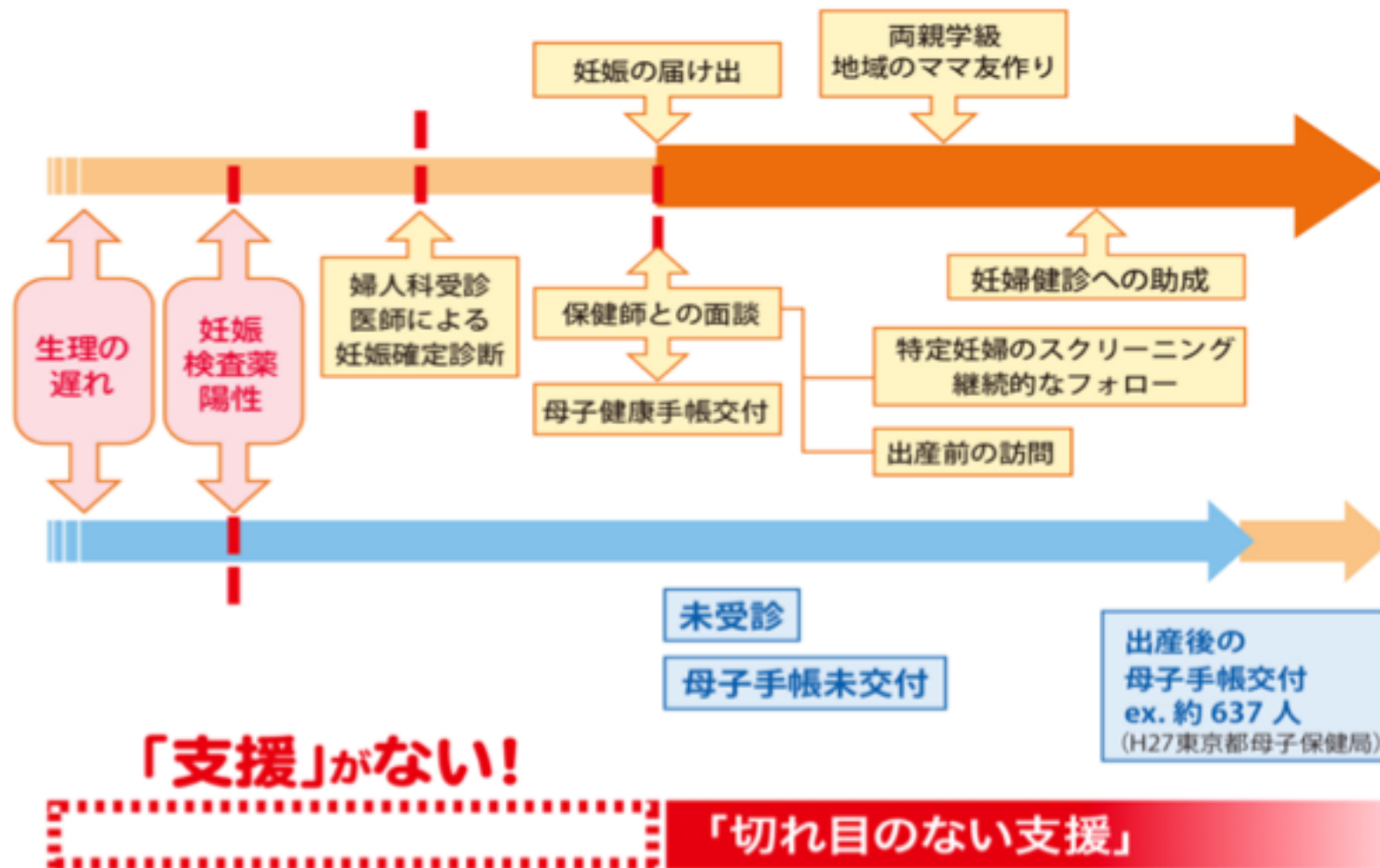
平成30年4月1日から令和2年3月31日の間に発生した
心中以外の0日死亡9人すべてが「母子健康手帳未交付」
また9人中8人が「妊婦健診未受診」

出産場所は自宅

医療機関で出産している人は誰もいない
自宅のトイレが38.7%

子ども虐待による死亡事例等の検証結果等について
社会保障審議会児童部会児童虐待等要保護事例の検証に関する専門委員会 第17次報告より

切れ目のない支援にたどり着けない



社会から排除され見えなくされている

社会に居場所をつくる

孤立

社会への不信
無力感

絶望
するしかない社会

誰にも言えない・誰
もわかってくれな
い・不信感

自殺や
虐待死

自立

社会への信頼
自分への自信

希望
がもてる社会

受け入れられる体
験・繋がることで
得た安心感

安心安全な
相談窓口と居場所



ピッコラーレ

3つの妊娠葛藤相談窓口を運営



2018年7月 「にんしんSOS埼玉」 開設（埼玉県受託）
2019年1月 「にんしんSOSちば」 開設（千葉県より受託）

妊娠葛藤とは

「産む、産まない、産めない」「育てる、育てない、育てられない」だけではない。

妊娠確定前からの葛藤：

「妊娠したかもしれない」

「生理が遅れている」

「相手に知られたら逃げられる」

「妊娠していたら親に殺される」などの不安や恐れ。



妊娠確定後の葛藤：

「妊娠が職場に知られたら、仕事がなくなって居場所もなくなる」

「病院に行きたいけどお金がない」

「野良妊婦の自分を受け入れてくれる病院があるのか」

「相手に逃げられて、親にも勘当された。どうしていいかわからない」

など、妊婦自身の生活と引き換えとも言える不安や恐れ。

ピッコラーレ 妊娠葛藤相談窓口の仕組み

365日開設
電話：16-23時
メール・twitter相談：24時間



相談者



相談支援チーム

連携先機関

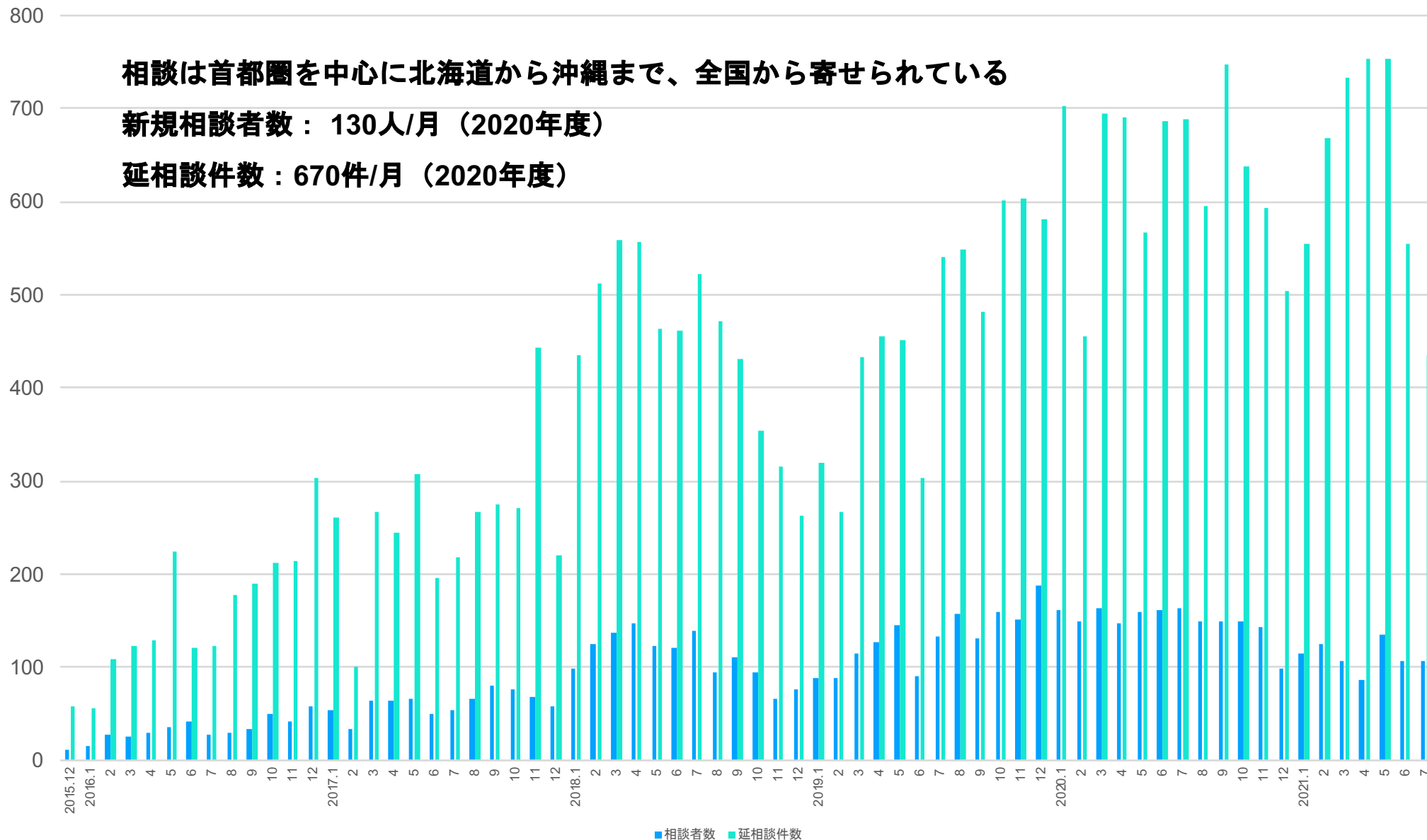
- 相談窓口は 2-3名体制
- 必要に応じて、面談・同行支援を実施
- 相談記録カルテシステムを導入（情報共有）
- コールセンターシステムを導入
（相談員のリモートワークを実現）

多様な資格を持つ相談支援員で構成

資格タイプ	人数	医療（産科領域）	福祉	心理・精神
助産師	10	●		
看護師	12	●		●
保健師	5	●	●	
医師	1	●		●
社会福祉士	8		●	●
保育士	3		●	
教員	1		●	
精神保健福祉士	1		●	●
公認心理師	2		●	●
臨床心理師	1		●	●

各月ごとの相談者数・延相談件数の推移

2015年12月1日から2021年7月31日 総相談者数6,644人、延相談件数28,063件



相談内容と相談者の年齢

「妊娠したかも知れない・・・」
妊娠確定前の相談が63%

相談者は10代～20代で全体の76%
10代の相談者が40%

図1-7 今までに寄せられた相談内容の構成

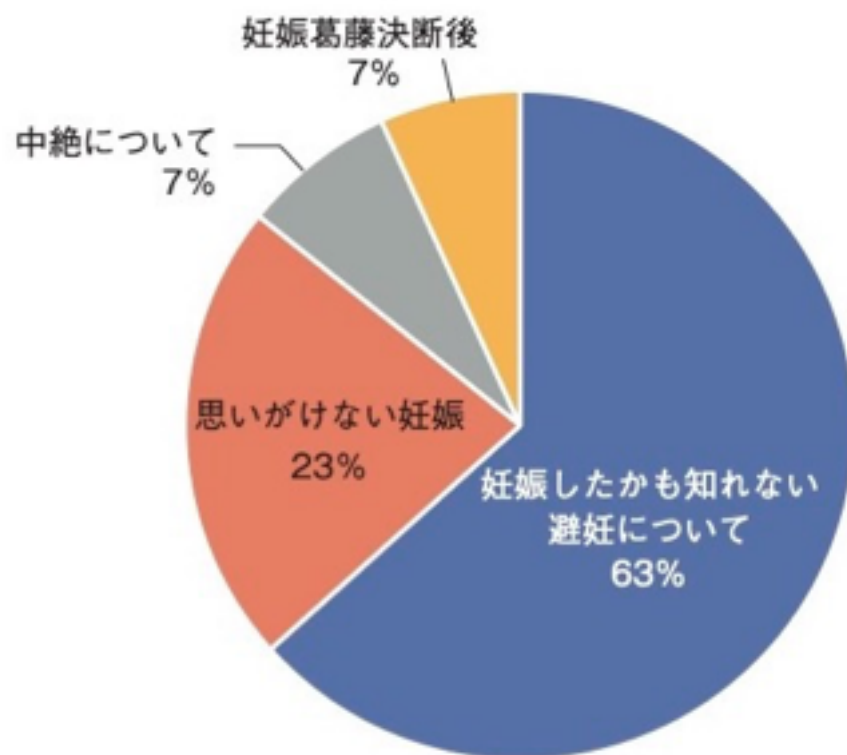
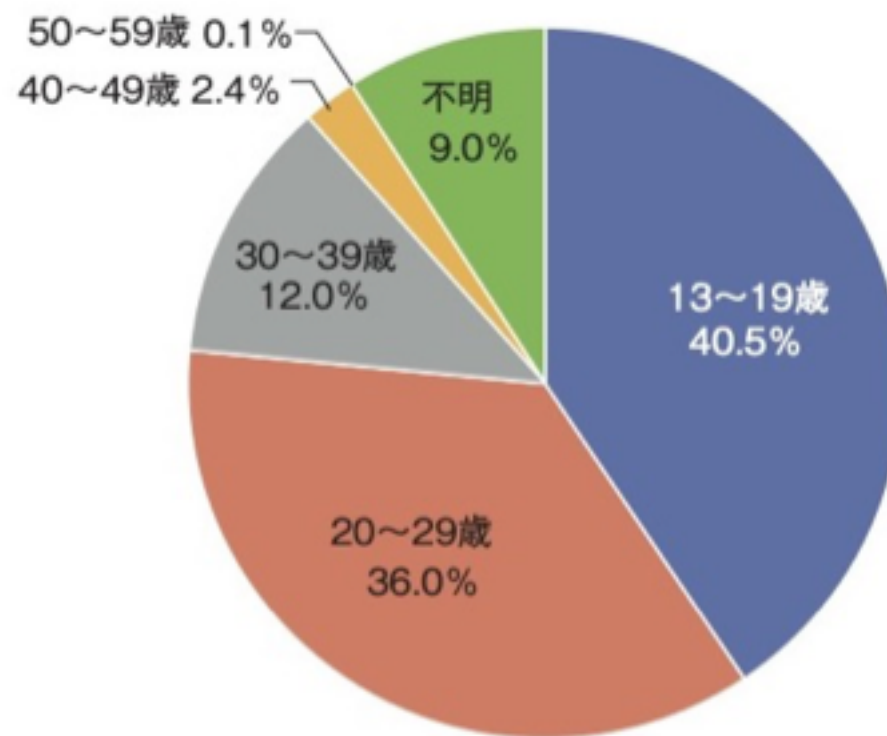


図1-2 2015年～2019年の相談者の年代別割合



データ：ピッコラーレ「妊娠葛藤白書」より



「思いがけない妊娠」に関する相談

図2-2-3 「思いがけない妊娠」に関する相談
内容：相談時点での出産への気持ち

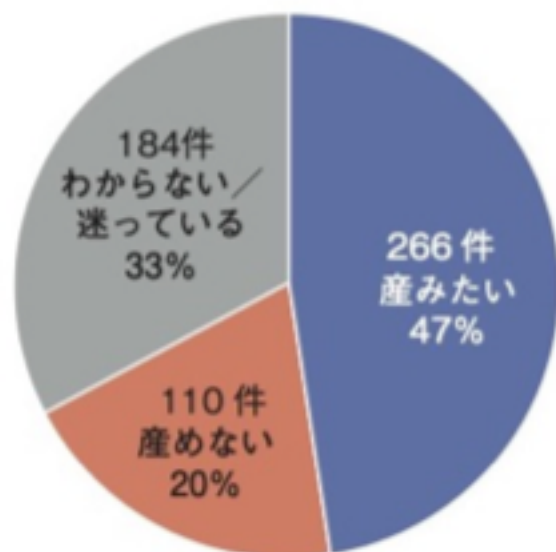
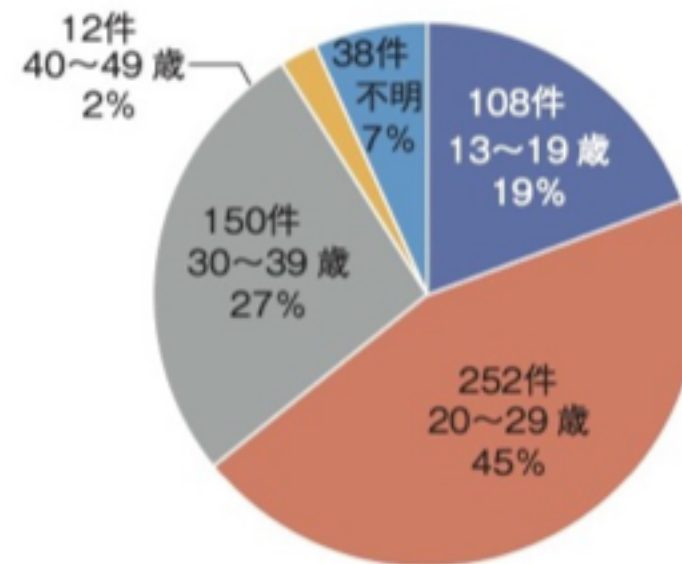
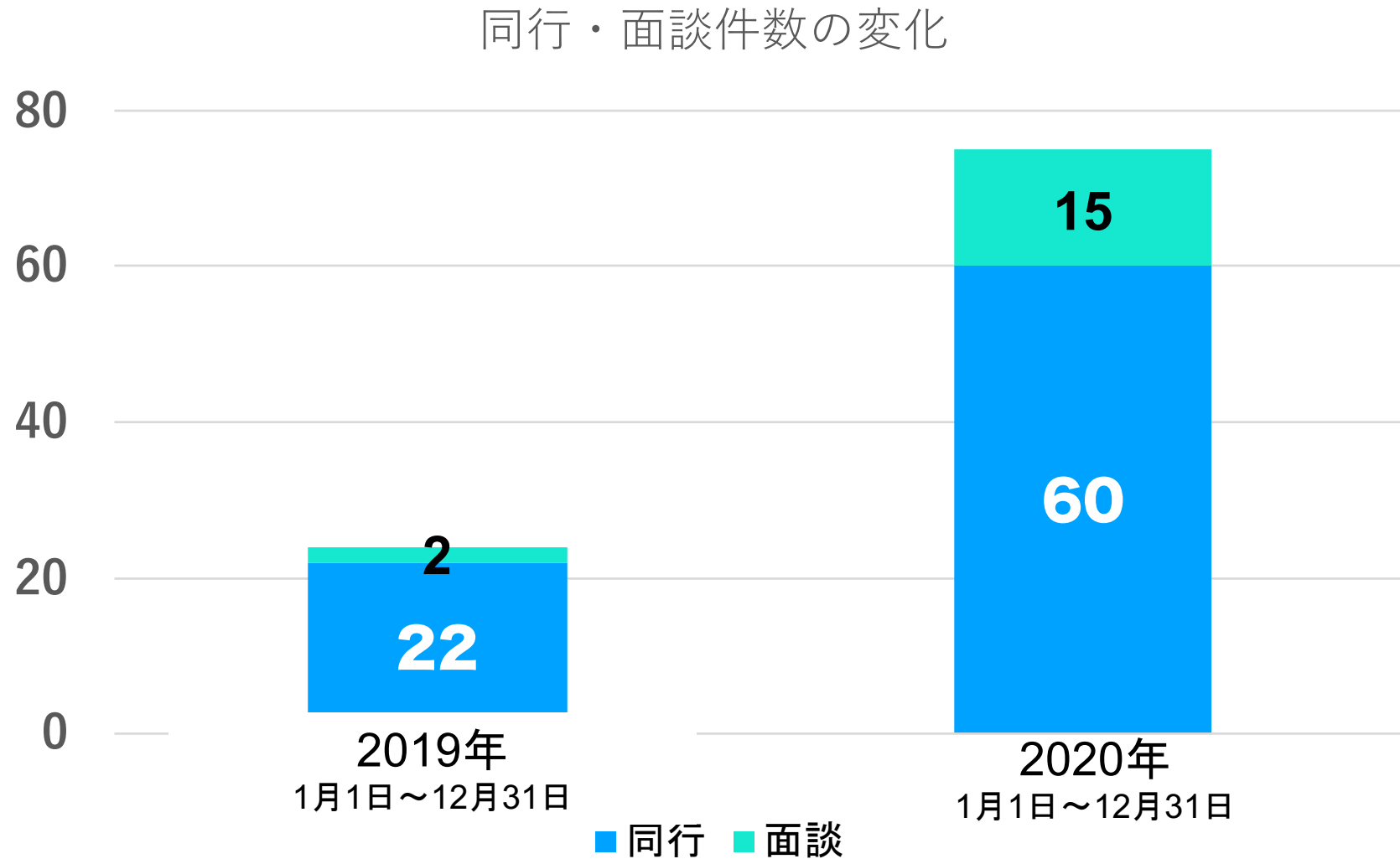


図2-2-4 「思いがけない妊娠」に関する相談：
年代別

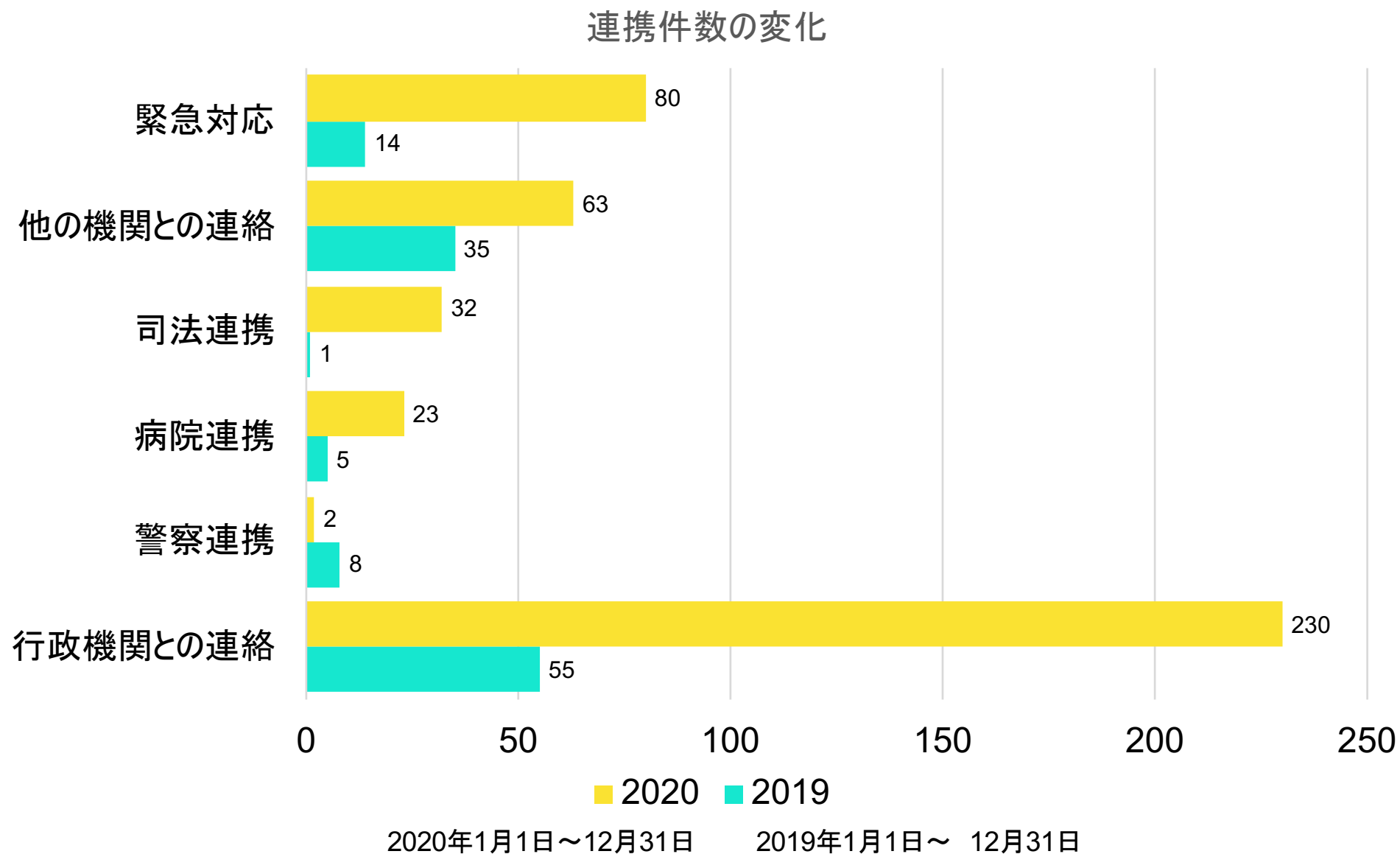


作成：ピッコラーレ「妊娠葛藤白書」より

同行や面談件数が増えている



関係機関との連携件数も増えている



相談者を社会とつなぐハブとなって



